

富士山の崩れ

プレート衝突の場に聳え立つ火山

優美な山容を持ち、
古くから信仰の山として人々の傍にあった山々。
それらは巨大な崩壊地を持つ活火山、
大規模な災害を繰り返してきた荒ぶる山。
人々は荒ぶる山と共生するために
「砂防」という技術を発達させてきた。



大沢崩れと大沢扇状地

【富士砂防事務所 提供】

“日本三靈山”火山の崩れ

—富士山・立山・白山の災害と砂防—



立山カルデラと大鷲崩れ

【富山県立山カルデラ砂防博物館 提供】

立山の崩れ

活断層に切られた巨大カルデラをもつ火山

白山の崩れ

脆弱で滑りやすい地質の上にいる火山



別当谷・甚之助谷の崩れ

【金沢河川国道事務所 提供】

2025 (令和7) 年

7/12 [土] → 9/15 [月・祝]

静岡県富士山世界遺産センター2階 企画展示室

開館時間 / 〈7月・8月〉9:00~18:00 〈9月〉9:00~17:00 (最終入館は閉館30分前)

休館日 / 7月15日 (火)、8月19日 (火)

常設展観覧料 / 一般300円、団体(有料観覧者20名以上) 200円

15歳未満・70歳以上・学生・障害者等無料 (証明書をご提示下さい)

※本企画展は常設展観覧料でご覧いただけます。

関連イベント

公開講座 ①7月20日(日) 14時~15時

「北陸の活火山 立山・白山の災害と砂防の歴史」
福井幸太郎 (富山県立山カルデラ砂防博物館)

②8月17日(日) 14時~15時

「富士砂防事務所が対策を進める土砂移動現象
—大沢崩れ、スラッシュ雪崩、そして富士山噴火とリアルタイムハザードマップ」
中戸真一 (国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所)

ギャラリートーク 7月12日(土)・26日(土)、8月9日(土)・24日(日)、
9月6日(土)・15日(月・祝) 各日 10時30分~11時、14時~14時30分

【主催】



静岡県富士山世界遺産センター

【共催】



山と川と人のミュージアム
富山県立山カルデラ砂防博物館

【展示協力】 石川県立自然史資料館、富山県 [立山博物館]、国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所、国土交通省北陸地方整備局 立山砂防事務所・金沢河川国道事務所 他

本企画展は公益財団法人
はごろも教育研究奨励会
から助成を受けて開催し
ています。

“日本三霊山”火山が形成される過程で、それぞれに特徴的な土砂災害が発生してきました。それぞれの火山の砂防史を紐解くと、崩れを抑えるための様々な工夫が、現代の砂防技術として引き継がれてきたことが分かります。“日本三霊山”で行われている砂防は、私たちの暮らしや生命だけでなく、それぞれの霊山をとりまく信仰の文化をも守っています。

災害を抑える砂防



大沢崩れと大沢扇状地 (富士砂防事務所提供)

大沢崩れ源頭部では、斜面崩壊や浸食を抑えながら植生の復元を図るための工事が進められる。同時に、大沢扇状地では、土石流が河道から溢れ出ないように導流堤や流路工等が整備される。



大沢崩れ (富士砂防事務所提供)

富士山

富士山は火山砕屑物が厚く堆積した火山です。富士山は約10万年前に誕生し、その後の活動期には富士山に氷河が存在したと指摘されるほど寒冷な時期がありました。氷雪に覆われた富士山で爆発的噴火が発生するたびに土石流が流れ下って広大な石礫河原を形成しました。現在の富士山でも融雪期には雪代を発生させて被害を及ぼすことがあります。山体を深く切り込んだ大沢崩れでは、崩落が進む源頭部と土石流が流れ落ちる大沢扇状地の双方で砂防事業が進められています。

崩れによる災害



「富士山焼砂押流荒地絵図」
[岩本村文書 (富士砂防事務所提供)]



立山

現在も激しく隆起を続ける北アルプスでは、地下深部で作られた岩石が地表に広く露出しています。安政五年の飛越地震(1858年)では、立山火山のカルデラ南東部が大きく崩れ、常願寺川の上流を堰き止めた後、土石流となって常願寺川を一気に流れ下って大災害を引き起こしました。現在もカルデラ内には大量の土砂が不安定に堆積しており、これらが流れ出さないように100年以上にわたって砂防事業が行われています。



大鷲崩れ (富山県立立山カルデラ砂防博物館提供)

崩れによる災害



「安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図」(滑川市立博物館蔵)



白岩堰堤 (立山砂防事務所提供)



泥谷堰堤 (立山砂防事務所提供)

災害を抑える砂防

立山カルデラを源の一つにする常願寺川水系を一体的に整備するための砂防施設群。白岩堰堤は立山カルデラの出口に位置しており、その落差は108m。当時は珍しかったコンクリートや大型機械などが駆使された。

国の重要文化財の指定書



別当谷大崩れ (金沢河川国道事務所提供)

白山

白山周辺には、数億年前から現在にかけての多様な環境で形成された変化に富む地質が広がります。白山の土台をなす手取層群では、繰り返される豪雪や融雪水の影響によって、地すべりや崩壊が多発し、時には手取川沿いの広い範囲で大洪水を引き起こしてきました。白山火山の土台となっている岩盤が滑って動かないように山脚を固定し、さらに崩壊した土砂を麓に流れ出さないように、立山と同じく100年以上にわたって砂防事業が行われています。

崩れによる災害



百万貫岩 (金沢河川国道事務所提供)



河内谷分教場の半鐘
(白山砂防科学館蔵)

災害を抑える砂防

小さな階段状の砂防堰堤群を細かく設置し、山脚を固定して地すべりや崩壊を防止した。あわせて現在も排水ボーリングや排水トンネルによって被圧地下水の除去が行われ、地すべりを抑制している。



甚之助谷砂防堰堤群 (金沢河川国道事務所提供)



登録有形文化財
の登録プレート

静岡県富士山世界遺産センター

【アクセス】 新幹線/新富士駅からバスまたはタクシー約40分
電車/JR身延線富士宮駅から徒歩8分
お車/新東名高速道路新富士ICから約10分・東名高速道路富士ICから約15分
※当センターには来館者用駐車場はありません。
(近隣の富士宮市神田川観光駐車場(有料)をご利用ください。)

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12
TEL 0544-21-3776 FAX 0544-23-6800
WEB <https://mtfuji-whc.jp>



撮影:平井広行

